



米子市埋蔵文化財センターたより

第26号

2017年9月



みやのだん 日南町新屋宮ノ段遺跡の調査が進む！

—火山灰の分析調査を実施—

5月に着手した新屋宮ノ段遺跡の発掘調査は、今年度に予定している面積の約半分程度まで進めることが出来ました。これまでの調査で、調査地内に広がる平坦地には建物などは建てられていないことが判明しました。恐らく、江戸時代から現代まで水田や畑として利用されていたと考えられます。そして、縄文時代早期の土器を含む層の下には縄文時代以前に降灰した火山灰層が広がっていることを確認しました。

面白い遺構としては、調査区の北側で近現代の道路跡を検出しています。この道路は、近くにあった明治時代頃の瓦窯を壊して出来た粘土や瓦の破片を路床として再利用しており、路面は堅く叩き締められていました。また、道路の上面に小さく砕かれた鉄滓の破片がバラスのように敷き詰められていたことから、この近くに製鉄をおこなったタタラが存在するものと考えられます。

8月には火山灰考古学研究所の早田勉さんに来ていただき、火山灰の分析試料の採取を実施しました。これは、調査地内に堆積している火山灰がいつこの火山から降ってきたものなのかを特定するための調査です。分析結果は、今年度末までに判明する予定です。
(佐伯)



瓦窯を路床に再利用した道路の跡

発掘調査情報

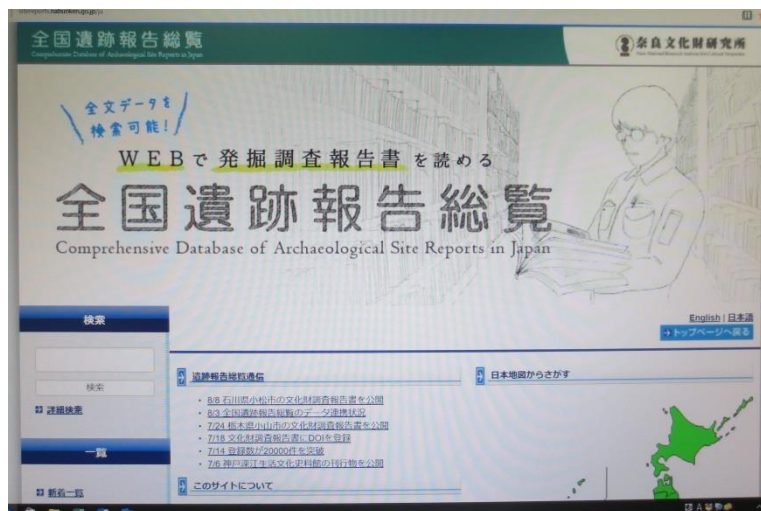
ー全国遺跡報告総覧への登録作業が完了ー

8月のお盆期間中に国立文化財機構奈良文化財研究所が運用している「全国遺跡報告総覧」への発掘調査報告書の公開作業を行いました。

「全国遺跡報告総覧」とは、各地の自治体や研究機関が刊行している発掘調査報告書をインターネット上で検索・閲覧できるサービスで、現在までに日本全国の発掘調査報告書、2万冊以上が公開されています。

今回行った登録作業で、米子市文化財団が刊行した13冊の報告書と、旧米子市教育文化事業団が刊行した66冊の報告書全てがインターネット上で閲覧できるようになりました。今後も、新たに刊行された報告書を順次公開する予定です。発掘調査の成果情報として是非ご利用ください。（佐伯）

全国遺跡報告総覧のURLは <http://sitereports.nabunken.bo.jp/>



整理室たより

鮎ヶ口遺跡・河原田遺跡の再整理

整理室では、1979年（昭和54）に淀江町宇田川地区土地改良ほ場整備工事で発見された鮎ヶ口遺跡と河原田遺跡の再整理を行っています。

両遺跡は縄文時代の前期と後期の代表的な遺跡ですが、簡単な報告書しか出されていません。その後、新鳥取県史に主要な遺物が掲載されましたが、まだ未整理の遺物や調査記録があるため、あらためて再整理を行っています。

中でも250点くらいある鮎ヶ口遺跡出土の石錘は、ほとんど整理されていませんでした。鮎ヶ口遺跡の性格を物語る主要な遺物です。また河原田遺跡からはコンテナ55箱もの大量の土器が採取されていました。少しでも資料化できるように再整理に取り組んでいます。（小原）

ー縄文時代前期・後期の遺跡ー



鮎ヶ口遺跡出土の多数の石錘

鮎ヶ口遺跡は、淀江町中西尾字鮎ヶ口、河原田A・B遺跡は中西尾字河原田の水田下にあります。1979年に宇田川地区は場整備工事で発見された縄文時代の遺跡です。水路工事で掘り上げられた土の中から多数の縄文土器が発見されたため、緊急に発掘されました。

とはいえ両遺跡とも工事中発見であったため、わずかなトレンチを入れただけの調査でした。鮎ヶ口遺跡からは縄文時代前期前半（6千年前）の土器、石器、木製品などが、河原田遺跡からは縄文時代後期後半（3千年前）の土器や石器が大量に出土しました。

鮎ヶ口本遺跡は、旧淀江湖岸の遺跡であり大量の石錘の出土から、縄文時代前期初頭の渡り上がり遺跡に続いて営まれた漁労を主体とした人たちの村跡であり、河原田遺跡は稲吉扇状地裾で暮らした人たちの村跡があったと考えられています。（小原）



鮎ヶ口遺跡の木材出土状況



河原田遺跡の土器出土状況

コラム

戦国時代を掘る③

—久米第1遺跡—

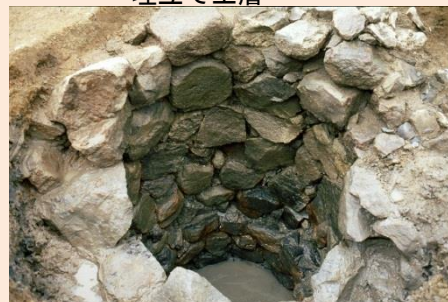
久米第1遺跡は、米子市久米町の米子城跡に所在する遺跡です。1988年に鳥取大学病院の建設に伴い米子城の三の丸の西側にあたる場所にあった稲田酒造の敷地で発見されました。

久米第一遺跡の調査では最上層では明治時代の酒蔵の跡が、最下層では縄文時代前期の包含層が確認され海辺の長い歴史が解りました。

米子城に関係すると考えられた遺構は、16世紀の中葉～後葉の埋立て土層面で、掘立柱の建物跡や多数の井戸が発見されました。米子城の築城が始められた頃に中海の水際を埋め立て、防御施設などが作られていたことを物語っています。（小原）



埋立て土層



石組井戸

センター・資料館日誌

- 7月7日(金) 出雲弥生の森博物館の花谷氏が馬具調査で来館された
- 7月10日(月) 鳥取県教育文化財団の河合氏・水村氏が凸帯文土器調査で来館された。
- 7月24日(水) 成美なかよし学級を皮切りに夏休みの出前講座を開始した。



- 8月4日(金) 上淀白鳳の丘展示館の井上学芸員が淀江町誌写真データ調査で来館された。
- 8月5日(土) 考古学教室①勾玉づくりを福市考古資料館で開催した。



- 8月6日(日) 考古学教室②火起こし体験を福市考古資料館で開催した。
- 8月16日(水) パジャ学童保育児童が勾玉づくりを埋文センターで行った。
- 8月18日(金) 米子市文化財団連携事業『お仕事チャレンジ大作戦』一司書・

学芸員コースを米子市立図書館で開催した。

- 8月25日(金) 広島大学院生佐々木氏が目久美遺跡出土土器の調査で来館。
- 9月2日(土) 倉吉で開催された第45回山陰考古学研究集会に職員が参加。
- 9月5日(火) 香川県埋蔵文化財センターの蔵本氏が腰帯具の調査で来館。
- 9月21日(木) 岡山大学考古学研究室の教授と学生が埋蔵文化財センターの視察研修に来館された。



編集後記

秋の訪れとともにめっきり涼しくなり、夏の暑さをすっかり忘れてしまいそうです。

7～8月は学校の夏休みの関係で、なかよし学級への出前講座をはじめとして、数多くの行事を行い、職員は疲れ気味でした。

9月の涼しさに疲れた体が回復することを祈っています。

発行日 平成29年9月26日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp